

「コスト」と「制度」在り方議論

S I P 第3期スマートインフラマネジメントシステム構築でシンポ



社会実装をテーマにパネルディスカッションが行われた

内閣府・土研

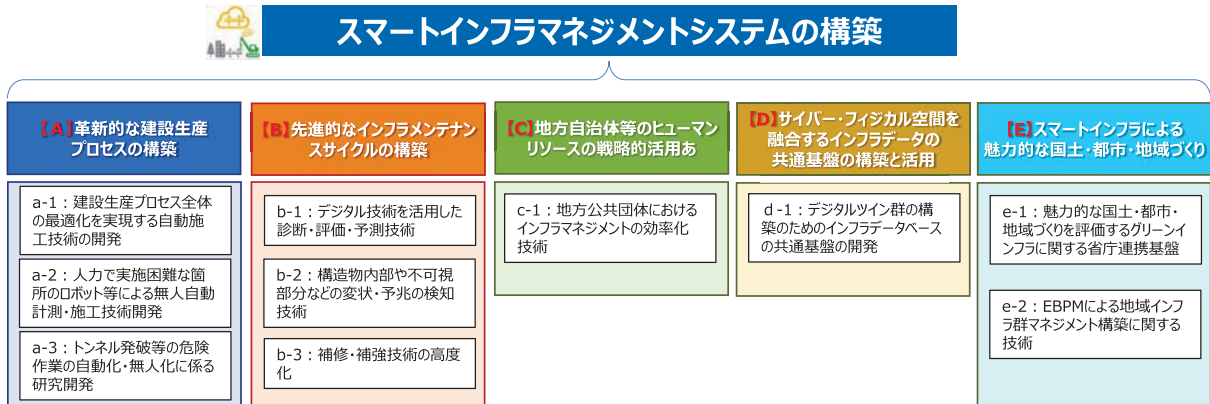
内閣府と土木研究所は、戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期課題「スマートインフラマネジメントシステムの構築」の研究開発内容を発信するシンポジウムを9月25日に開いた。パネルディスカッションでは「最先端技術の社会実装を目指して」をテーマに、五つのサブ課題の研究開発責任者がユーザーの納得を得る上で重要な「コスト」「社会実装に必要な「制度」の二つを論点に意見を交わした。

社会に新技術の価値を提示

SIP第3期課題は未来のは、サブ課題の研究開発責任者として、「革新的な建設生メーシしながら、デジタルを産プロセスの構築」の永谷圭駆使して持続可能な国土づく司東大特任教授、「先進的なりに寄与するシステムの構築インフラメンテナンサイクを目標している。期間は20ルの構築」の石田哲也東大教授「27年度まで、土木研究所授「地方自治体などのヒューが研究推進法人を担当する。マンリソースの戦略的活用」パネルディスカッションで、の沢田和秀岐阜大教授、「サ

対価、便益踏まえた実装を

五つのサブ課題の研究開発内容



プログラムディレクターの久田教授



幸福を享受できるインフラ目指す

ことが最も重要だ。その上で、インフラのユーザーが多様な幸せを享受できるように未来のインフラや、その集合体である未来のまちを構築することも重要な視点となる」と力を込める。

多様なユーザーの視点をいかに研究開発に反映させるかについては、地域ごとに異なる事情を踏まえつつ「必ずしも最先端技術ではなく既存の技術をマッチさせるなど、ニーズにどううまく寄り添うかといったアプローチも必要になる」と説明する。また、「ダイバシティやインクルーシブの視点からのアプローチも心掛けていく」とも。

同課題の研究開発は2年目を迎えた。「（研究者の）皆さんに非常に精力的に取り組んでいただいている。社会実装も含めた検討が進んでいるため大いに期待している」と前を向く。

建設技術のイノベーションが最重要

SIP第3期課題「スマートインフラマネジメントシステムの構築」の研究開発を統括するプログラムディレクターを務める久田真東北大学大学院教授は、災害に対する脆弱（ぜいじゃく）性や建設産業の担い手不足といった課題を克服し、SIPで目標に掲げる「Society5.0」の未来社会を実現するため、「建設技術を未来の形にイノベーションしていく」と意を聞いた。

久田氏は、建設技術のイノベーションが最重要で、コスト削減や効率化だけでなく、持続可能な社会の実現に不可欠であると強調する。特に、デジタル技術の活用は、従来の建設プロセスを革新し、安全性と効率性を同時に高める鍵となる。また、人材育成や組織改革も重要な課題として挙げられる。

久田氏は、建設技術のイノベーションが、持続可能な社会の実現に不可欠であると強調する。特に、デジタル技術の活用は、従来の建設プロセスを革新し、安全性と効率性を同時に高める鍵となる。また、人材育成や組織改革も重要な課題として挙げられる。

るといった「トータルで安く、ある人、ある人に、研修や教育をどうやって提供するか」と述べた。久田氏は、建設技術のイノベーションが、持続可能な社会の実現に不可欠であると強調する。特に、デジタル技術の活用は、従来の建設プロセスを革新し、安全性と効率性を同時に高める鍵となる。また、人材育成や組織改革も重要な課題として挙げられる。

